

コロラドに行って

吉田中学校

渡邊 青空

私はコロラドに行けて良かったなと思います。現地に行くことでしか分からなかったことや出来なかったことをたくさん学べたからです。コロラドでの日々は全てが刺激的で、この九日間は私にとって一生の思い出になりました。

まず私が驚いたのは出国手続きの大変さです。やっとの思いで書類を書き上げ、空港で荷物を預けようとしていました。自分で預けるというのは初めてのことで私はひどく緊張してしまいました。すると、「ESTA」というアメリカに入国するために必要な書類が私だけうまく取得されていないことが分かりました。先生たちのおかげで何とか無事 ESTA を取得できたのですが、本当にドキドキしました。まさか出国からこんなことが起きるなんて、これから何が起きるのか不安で仕方ありませんでした。しかし、それ以外大きなトラブルもなく無事、デンバー空港に到着できました。空港からバスで移動してすぐにホストファミリーと対面しました。私は期待と不安で胸がいっぱいでした。

ホームステイの5日間は本当に楽しくて一瞬のように感じられました。とても充実した毎日だったのでここでは語り尽くせません。そこで、特に心に残った二つのことを紹介したいと思います。

まずはホストマザーが家の地下を使って運営している幼稚園で子どもたちと触れ合ったことです。朝、ホストマザーに幼稚園の手伝いをしてくれないかと言われ、予想外の展開に嬉しい反面、少しの不安もありました。最初、私は一人の男の子とひらがなの勉強をしたり、絵本を読んだりしました。英語はほとんど伝わらなかったけれど、一生懸命コミュニケーションを取ろうと頑張りました。すると、段々男の子が心を開いてくれて、それがとても嬉しかったです。そのとき、改めて英語が話せなくても伝えようとするのが大切なんだと思いました。

そしてもう一つは、「DENECK」という男の人のことです。彼はコロラドのデンバーに住んでいて、前に富士吉田市に来た際に私の祖父の食堂を訪れました。彼がコロラドに住んでいると知った祖父は、彼に私のコロラド派遣の話をしました。それを聞いた彼は、電話番号を教えてくださいました。私はホームステイ中にそれを思い出し、ホストマザーに頼んでメッセージを送りました。送られたことだけでも嬉しかったのですが、彼からの返信が来て、勇気を出してホストマザーに頼んで良かったなと思いました。

この他にもたくさんの思い出をつくり、多くのことを学び、自分の視野を大きく広げられました。これからもっと英語の勉強をして、さらに話せるようになりたいです。英語を話すうえで最も大切なことは話そうとすることだと、今回の旅で思いました。これは英語だけでなく普段の私にも言えることです。私は人見知りで自分から話すのが苦手でした。しかし、この派遣を終えて、少しはそんな自分を変えられたのかなと思います。そんな意味でもこの

九日間は私にとって意味のあるものでした。これからは、この派遣で体験し、学んだり感じたりしたことを日常生活に生かして行きたいです。そしてさらに、人間的に成長していきたいです。また、いつかもう一度コロラドに行きたいと思います。

このような経験ができたのは、たくさんの人の支えがあったからです。両親や市の人たち、そして18人の仲間など多くの人です。本当にありがとうございました。